

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
だい き だい ねん だい かい だい にち
(第9期 第2年 第3回 第2日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2013(平成25)年12月8日(日)午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 19人

おう ゆうしん やん いー わん びん こん みるく ぼく ちゃんほ なかむら じゅでいす しゃるま
ガジェンダー、ケオバサアト ラツアミチャン、仲田 シリワン、グエン ゴク
バオ リン、セヌー ジョアキム、柳澤 アンナ、コロソツイ カロル、園田 泉
ベアトリス、生出 オリエッタ、エドモンド ダンカン、シフケン ブランドン、
チャート デビト、張 氷青

(2) 事務局

よこやま しつちよう まちだ たんとうかちよう にしやま たんとうかちよう やぎ たんとうかちよう むかい かちようほさき
横山 室長、町田 担当課長、西山 担当課長、八木 担当課長、向井 課長補佐、
おだぎり かかりちよう ふえき かかりちよう きたづめ しょくいん たかはし せんもんちようさいん
小田切 係長、笛木 係長、北爪 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 8人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 閉会

【全体会】

わんびんいんちよう かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ ねんど だい かい
王平委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議2013年度、第3回
の第2日の会議を開催する。本日は呉委員、ガン委員、サルヴィオ委員と安

委員から欠席の連絡をいただいている。まずは、事務局から今日の日程と配布資料の説明をお願いする。」

(事務局向井課長補佐が今日の日程と配布資料について説明。)

王平委員長「続いて、事務局のから前回会議のまとめをお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

王平委員長「今日は先に部会審議をして、その部会審議で話し合ったことをもとに、最後に全体会で情報伝達について審議していく。」

【福祉教育部会】

園田部会長「それでは、福祉教育部会を始めたい。まずは、提言の文案について事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料2-2について説明。)

朴委員「いろいろと議論を整理してもらっているので、あとは背景・理由の部分も議論の経緯がわかるようにまとめていただきたい。」

事務局高橋専門調査員「わかりました。まだ作成していないので、できた段階で皆さんにお見せして、検討していただくということによろしいか。しっかりと丁寧なものをつくりたいと思う。」

園田部会長「では、今日は背景・理由がないが、提言の文案についてはこれでよいか。賛成の人は挙手を。(全員挙手) それでは、次にウエルカムセットについて議論したい。まずは事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料4について説明。)

園田部会長「ウエルカムセットの内容については、ばらつきがあるのでそれを統一するという提言にしたらよいと思う。」

王平委員長「事務局に確認なのだが、『外国人の皆さんへ』はリストだとグレーになっているがすべての区でウエルカムセットに入っているということか。」

事務局高橋専門調査員「現状だと区ごとの対応は違う。ウエルカムセットに入れて渡している区もあれば、外国人向けの情報コーナーにあるということ案内している区もあるそうだ。」

王平委員長「せっかく多言語で作成しているので、ウエルカムセットに入れて必ず渡すようにしてほしい。内容についても、もう一度私たちが検討して更新したらよいと思う。」

園田部会長「内容の検討はよいアイデアだと思うが、更新が必要なものが多いと在庫

がでてしまうので、あまりコロコロと情報が変わってしまうものは載せない方がよいかも。なるべく変わることはない基本的な情報にした方がよいと思う。」

仲田委員「問題なのは、情報のある場所がばらばらなことだと思う。いろいろな情報がいろいろなところにあるので、集めるのが難しい。」

園田部会長「たとえば、住民登録の窓口の一部に置いてくださいということはできるのだろうか。ウエルカムセットに入れて渡せるとよいのだが。」

事務局高橋専門調査員「まず、窓口がたくさんあり、どこに行ったらわからないし、別の用事があるときは1カ所だけで終わらなくて、別の窓口に行かなければいけないというのは、外国人の方だけではなくて日本人も同じだ。1つの窓口で全部の手続きをできるようにするのは難しい。もちろん、窓口や情報のある場所をわかりやすくすることは重要だ。それと、ウエルカムセットに何でも入れればよいかということとそれも少し違うと思う。これまでの審議のなかで情報量が多いと『困る』『見ない』といった意見もあったと思う。難しい課題ではあるが、必要なものをコンパクトにするということが重要だと思う。何が必要なのかということは、やはりみなさんの視点を生かすべきところだと思うので、ぜひ議論をしてほしい。」

ケオバサアト委員「資源ごみとごみの分け方、出し方はとても大事なことだと思う。ごみの出し方が悪いとトラブルになりやすく、外国人には住んでほしくないになってしまうので、そうならないためにも多言語での情報提供が必要だ。」

王平委員長「資料を見ると多言語にはなっているので、これを必ず渡すということ徹底すればよいのではないかと思う。多言語の資料はいろいろとあるようなので、しっかりと渡すということが重要だ。」

事務局高橋専門調査員「少し整理をさせてほしい。多言語の資料があるのに渡していないということに関しては、渡すということだけでよいと思う。次に、どうやって渡すかということだが、窓口に来た人に合わせて言語ごとにウエルカムセットを準備するというのは現実的に難しい。」

王平委員長「『外国人の皆さんへ』みたいに1冊にまとめたらいいのではないか。」

園田部会長「基本のセットとしては英語を入れるという案もあるだろう。」

グエン委員「私は日本語と英語は読めるが、他の言語は読めないなのでその部分は私にとっては必要ない。せっかく多言語で1冊にまとめても、実際には1部分しか必要ないということになるとコストが無駄になってしまう。」

事務局高橋専門調査員「全部まとめれば1冊で済むが、自分にとって必要のないものがたくさんついてきてしまう。これだとみなさんの意見にあった『情報が多過ぎると読まない』とか『置いたままにしてしまう』ということになってしまっているのではないか。先ほど部会長が提案したのは、英語のものをとりあえず統一で入れる。ただし、同時に英語以外の言語もあるということを案内として入れておいて、英語以外の言語で欲しい人には情報コーナーなどを通じて提供するというのはどうだろうか。」

園田部会長「それと、今私たちはウェルカムセットと言っているが、各区によって呼び名も違うようだ。これも統一した方がいいのではないか。『ウェルカムセット』という名前で提言にすることによってどうだろうか。（全員賛成）」

中村委員「私は英語と日本語だけで構わないと思う。」

王平委員長「提言をまとめるまでの時間も少ないので、中身の検討をした方がいいと思う。どの情報が必要なのか、あるいは必要ないのか、話し合った方がいいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「言語について、部会長からはまずは英語を入れるという提案があったかと思うが、この点についてまだ決をとっていない。何が決まったのか、明確にしておいた方がいいのではないか。」

園田部会長「相手によって言語を差しかえるという作業はとても大変なので、とりあえず英語を入れて、あとはセットの中に『他の言語もあるので問い合わせください』とした方がいいのではないかと私は思う。賛成の人は挙手を。（挙手多数）ウェブ上にあるものは、それも一緒に案内しよう。次回は、実際にサンプルを見て中身を検討したい。以上で部会を閉会する。」

【社会生活部会】

チャート部会長「それでは、今日は出席者が少ないが社会生活部会をはじめ。次回には提言の案を見て、修正をしないと間に合わない。なので、今回は提言の内容を確定して、事務局に案を作成してもらえるように進めなければならない。まずは、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いする。」

（事務局北爪職員が前回会議のまとめについて資料1に基づき説明。）

チャート部会長「前回のまとめについて何か質問はあるか。（なし）では、引き続き提言への市の取組状況に対する評価について事務局から説明をお願いす

る。」

(事務局北爪職員が資料3-2に基づき説明。)

チャート部会長「何か質問はあるか。(なし)とくになければ、提言に向けた準備に入りたい。まずは、出入国管理について提言の内容を決めたい。事務局から説明をお願いする。」

(事務局北爪職員が資料3-3に基づき説明。)

チャート部会長「それでは何か質問はあるか。」

コロンツイ委員「2つある。1つは、97年と99年の提言を参考にしたはずなので、資料に残してほしい。もう1つは、法務大臣に働きかけるということを書いた方がよいと思う。」

柳澤委員「家族滞在に親を含めるという理解でよいか。」

コロンツイ委員「それが一番大きい。親に在留資格を与えてほしいということではない。本人の資格がある期間と同じだけ日本に滞在できるようにしてほしいという要望だ。」

張委員「手続きの更新が必要になったときにどうするのか。」

孔委員「わざわざ国へ帰って更新手続きをするのは大変なので、日本で手続きができる」とよい。」

シャルマ副委員長「この提言のポイントと期間はということにあるから、たとえば配偶者ビザでもよいという理解であっているか。在留資格に関係なくということではよいか。」

コロンツイ委員「高度人材の場合には、家族滞在の範囲に親を含めることができるようだが高度人材という在留資格自体が簡単にとれるものではない。」

チャート部会長「では、次は提言の背景・理由に書く部分について話し合いたい。どういった点を重視してほしいかということだ。」

シャルマ副委員長「日本に長期的に住みたい場合に、親と一緒に住めることで安心感を得られるということが重要なポイントなのではないかと思う。」

柳澤委員「子どもが親の面倒を見る、という考え方があることも重要だと思う。」

コロンツイ委員「国際結婚の場合には、親の面倒を見るために国に帰るとしたら家族がばらばらになってしまうということもある。」

チャート部会長「4つのポイントがあるようだ。1つ目は精神的な安心感、2つ目は親が子どもの面倒を見てくれるなどのサポート、3つ目は子として親の面倒を見たいという思い、そして4つ目に家族がばらばらになってしまうことを避け

るため。」

張委員「国際結婚はこれからもっと増えるかもしれない。」

孔委員「日本で企業に勤めている人は優秀な人だと思うので、その人たちが親の面倒を見るために国へ帰ってしまうことは日本にとっては人材の流出になってしまいうという側面もあるのではないだろうか。」

チャート部会長「いろいろ出たが、次回までに事務局に提言案の作成をお願いしたい。次に、就職支援についてだが、就職支援についてはまだ具体的な話まで固まっていない。今期で提言にするのは難しいと思うがどうだろうか。(賛成)では、次のテーマの窓口対応について検討しよう。窓口対応については、全体会でも審議することになると思う。ウエルカムセットについては福祉教育部会で審議することになったので、ここでは審議しない。」

コロンツイ委員「私がかもともと窓口対応ということで提案したかったのは、証明書を英語やローマ字で発行できるようにしてほしいということだ。特別なものでなくて、基本的な証明書でよい。」

シャルマ副委員長「日本語がわからない外国人のための対応もできるようにしてほしい。とくに、来日したばかりの外国人は困ることが多いと思う。」

チャート部会長「1つは外国人向けの総合窓口があるとよい。もう1つはその外国人向けの総合窓口で多言語対応ができるとよいということか。他に何かあるか。」

コロンツイ委員「多言語としてしまうと難しいので、まずは英語ということではないだろうか。私は英語の住民票がほしいのだが、いつも国の証明書なので市では発行できないという回答が返ってくる。別に住所を証明してくれれば住民票ではなくてもよいのだが。それと、外国人登録の制度が変わって窓口がなくなってしまったのだが、できれば同じような機能の窓口や職員を復活させてほしい。」

張委員「すごく不便になったように感じる。別に言葉ができなくても、外国人を専門に対応してくれる人を置いてくれればよい。」

シャルマ副委員長「そのうえで、いろいろな言語の対応ができるようになればよい。」

柳澤委員「シンプルに外国人のための窓口を復活させてほしいと書けばよいのではないだろうか。」

チャート部会長「では、英語やローマ字での証明書の発行、外国人窓口の復活、でき

れば外国人窓口での多言語対応を可能にしてもらいたいということでは、背景・理由では、とくにニューカマーで日本語も英語もできない人は困っているということを強調する。それでは事務局に提言案の作成をお願いしたい。それでは、今日は以上で社会生活部会を閉会する。」

【全体会】

王平委員長「それでは、全体会を再開する。まずそれぞれの部会で審議した内容について報告をお願いする。福祉教育部会からお願いする。」

園田部会長「家庭教育については事務局に提言案を作成してもらい検討した。提言の方向性や中身については賛成ということになった。次回は、提言の背景・理由の部分も案を作成してもらうことにした。

ウェルカムセットについては、まずは呼び方を『ウェルカムセット』という名前に統一することを決定した。中身については多言語の資料があるものについては積極的に活用することにしたいが、すべての言語を入れることは難しいのでとりあえず英語を入れることを基準にすることにした。中身については、引き続き検討していく。」

王平委員長「同じ部会から何か補足意見はあるか。（なし）他の部会から何か質問や意見はあるか。（なし）では、続いて社会生活部会から報告をお願いする。」

チャート部会長「今日は、提言の基盤ができた。まず、就職支援については十分な審議ができていないので第9期では提言としないことに決まった。提言の市の取組状況については、これまで審議した内容を年次報告に記載してもらうことと事前研修会で第10期の人たちに説明することにした。

次に、第9期の提言について。まず、出入国管理については、具体的には親の呼び寄せで、これは日本政府に働きかける内容になる。提言の内容としては、外国人の在留期間と同じ期間で、親が日本に住めることを求める。そして、それは本人だけではなくて、配偶者が家族滞在で日本にいる場合は、配偶者の両親も同じ期間日本に住むことができるようにしたい。背景・理由としては、親の存在は精神的な支えになるので、外国人がより一層安心して暮らせるようになる。また、親に自分の子どものサポートをしてもらうこともできる。私たちとしても、親の面倒を見るために一緒に住みたい。国際結婚の場合には、親の面倒を見るために母国に帰ることになると家族が

ばらばらになる可能性がある。また、そうすると日本で働いている人材が流出することにもなる。これらのことを、次回までに事務局まとめてもらい、引き続き審議する。

情報伝達については、窓口対応について審議した。提言の内容については主に3つある。1つ目は証明書について、英語でも発行してほしいということ。2つ目は、外国人登録の窓口がなくなったので、区役所に外国人向けの窓口を復活してほしいということ。3つ目に、外国人向けの窓口ができた場合は、多言語対応を可能にしてほしいということ。背景・理由については、証明書については日本語で書かれた証明書は海外では通じないので英語で発行してほしい。これは外国人のためだけではなく、海外にいる日本人が外国で証明書が必要なおきにも同様に困っている問題だと思う。窓口については、外国人と接することになれている職員が区役所の中にと、外国人は大変助かる。とくに日本に来たばかりで、日本語も英語もできない外国人は、言語の壁を越えてコミュニケーションできる人材がいれば助かる。窓口対応についても、事務局に提言案を準備してもらうことにした。」

王平委員長「同じ部会から、何か補足意見があるか。(なし)他の部会から何か質問や意見はあるか。」

エドモンド委員「例えば両親が来るとしたら、年齢制限などはどうするつもりなのか。」

チャート部会長「今のところ、制限なしに入国を認めてもらうようにするつもりだ。」

ケオパサート委員「例えば、永住者ビザを持っている場合、親も永住者ビザをもらえるのか。」

チャート部会長「同じ期間の滞在を認めてもらうように提言するつもりなので、親にも子どもと同じ在留資格を与えてほしいという提言ではない。」

王平委員長「日本の入管法の改正も必要になってくるのでなかなか難しい提言だと思うが、川崎市から発信して、日本政府に法改正を期待できたらいいと思う。」

グエン委員「もし、他都市や県などで同じような提案があれば、連携したらよいのではないか。」

ケオパサート委員「親を呼べるのは、日本人と結婚をして子どもがいる場合だけか。」

チャート部会長「外国人同士の結婚でも独身の外国人でも親を呼び寄せることができるようにしたい。」

王平委員長「他に何か意見や質問はあるか。（なし）」

では、次に、情報伝達についての審議に入りたい。先ほど園田部会長からウエルカムセットの中身について説明があったが、何か質問や意見はあるか。」

チャート部会長「事務局に確認したいが、資料4にあるリストのうち多言語で存在するものはどれか。」

事務局北爪職員「リストの下の方にグレーで網かけをしている部分が、現時点で多言語の情報で存在するものだ。ただ、区によって配っている、配っていない、といった違いがある。」

チャート部会長「現時点で日本語しかないものについても、多言語化してほしいということを提言に入れたい。」

王平委員長「福祉教育部会では新たなものの翻訳をお願いするのではなくて、まずは既にある資料をウエルカムセットに入れることを徹底するという提言の柱にしたいということになった。」

コロンツイ委員「できれば、リストだけではなく実際の資料を見たい。」

王平委員長「福祉教育部会でも事務局に準備してもらいようにお願いをした。」

朴委員「ウエルカムセットの外国語は基本的に英語を入れるということだが、英語を読めない人もいる。」

王平委員長「福祉教育部会でも議論したが、もちろん人口的には中国人や韓国人が多いが、やはり共通言語ということになると英語だと思ふ。もちろん、英語以外の言語があることも窓口で伝わるようにするつもりだ。窓口で言語ごとに対応するというのは、現実的に難しいと思ふ。」

チャート部会長「現在、日本語しかない情報についても基本的なものについては多言語化してほしい。」

事務局高橋専門調査員「防災マップなどは、多言語化を進めているという話を伺っている。それ以外のものについては、すべて多言語化というのは難しいのでまずは中身を見て、ポイントを絞って多言語化を要求するのがよいのではないかと思ふ。」

チャート部会長「たしかに、すぐに全ての情報を多言語化というのは明らかに無理だと思ふ。中・長期的な取り組みとして提言には入れたい。」

王平委員長「社会生活部会では窓口の対応について審議したと思うが、改めて話をしてもらえるか。」

チャート委員「朴さんから英語の資料では読めない人もいるという話があったが、その点は重要な課題だと思う。ただ、そのためにも社会生活部会では外国人のための窓口が必要だということになった。」

王平委員長「事務局に聞きたいのだが、窓口はなくなったということだが職員はどこに行ったのか。」

事務局北爪職員「市の職員については、基本的に2年か3年程度で異動することになっている。窓口がなくなったこととは関係なく、異動した職員もいれば、区民課に残っている職員もいるという状況だ。」

シャルマ副委員長「ウェルカムセットは、デジタル化もした方がよいと思う。」

王平委員長「『外国人の皆さんへ』はPDFファイルでウェブ上にある。」

事務局高橋専門調査員「資源物・ごみと『備える。かわさき』も外国語でウェブ上にあるので、ウェブ上にあることを案内すればよいと思う。」

王平委員長「他に何か質問や意見はあるか。（なし）提言としては社会生活部会と福祉教育部会でそれぞれ1つとするか、それとも2つの部会であわせて1つとするか。」

チャート部会長「それについては次回以降の案を見て、どうかたちが一番よいのかを考えて、全体会議で決めればよいのではないだろうか。まずは、部会ごとに内容を深めることが重要だと思う。窓口対応を社会生活部会で、ウェルカムセットを福祉教育部会で担当したらよいと思う。」

園田部会長「私も同じ意見だ。」

王平委員長「では、社会生活部会で窓口対応を検討して、福祉教育部会でウェルカムセットを検討して、最終的な提言のかたちについては改めて考えるということによいか。賛成の人は挙手を。（全員挙手）

では、次に私からオープン会議についての報告をしたい。（オープン会議についての報告）」

ケオパサート委員「審議テーマの報告の際に園田さんとチャートさんが活躍してくれて感動した。」

王平委員長「他に何か質問や意見はあるか。（なし）それでは、実行委員会報告をお願いする。まずはニューズレターから。」

楊委員「次の50号が第9期の最終号になる。1ページ目では、まずは市民祭りへ

の参加報告をする。担当は呉さんをお願いしている。それと、第9期の活動終了の報告を王委員長をお願いする。2ページ目は第9期の提言を載せる。3ページ目には、みなさんの代表者会議の感想を載せる。4ページ目は、日本語教室のリストを載せることにした。」

王平委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)次に市民祭り実行委員会から報告をお願いする。」

朴委員「時間がないので手短に。市民祭りに参加して下さった方にはありがとうございました。アンケートをお願いしていると思うので、事務局まで提出をお願いする。」

王平委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)では、その他の事務連絡はあるか。」

チャート部会長「外国人市民意識実態調査の件で報告したい。第8期の提言を受けて、外国人市民意識実態調査について検討している。準備のための作業部会には、私が代表者会議の代表として加わっている。現時点では、まだ調査を実施するかどうかは決まっていない。もし予算がついたら来年度に実施する予定だ。学識の先生たちを中心に調査票を作成していて、もう少しで完成する予定だ。今回、みなさんをお願いをしたいのは、調査票が完成したら何人かの代表者に見てもらい、意見を聞きたいと思っている。事務局を通じて依頼があった場合は、ぜひ協力をお願いしたい。」

朴委員「先日、国際交流センターの活用推進検討委員会があった。交流センターがあまり知られていないということが話にでていたので、みなさんには交流センターの広報をお願いしたい。」

王平委員長「では、事務局から事務連絡をお願いする。」

事務局向井課長補佐「現在、第10期の代表者を募集している。もう少しで締め切りとなるので、応募を考えている人は気をつけてほしい。また、知り合いの方などに声をかけていただきたい。」

王平委員長「第9期から委員になった方は、まだ残っている課題もあるので、私からもぜひ継続してほしいと思う。次回の会議は、来年の1月19日、午後2時から国際交流センターで開催する。年内は今日が最後だ。みなさん、よいお年を。これで川崎市外国人市民代表者会議2013年度の第3回の第2日の会議を終わりにする。」